

よく生き よく笑い よき死と出会う



上智大学名誉教授
アルフONS・デーケン 先生

ドイツで一番有名なユーモアの定義に「ユーモアとは「にもかかわらず」笑うことである」というのがあります。つまり、私は今苦しんでいる「にもかかわらず」相手に対する思いやりとして笑顔を示すという意味です。真のユーモアとは、心と心のふれあいから生まれると思います。一緒に人生に深みを与えるユーモアについて考えてみましょう！

2014年

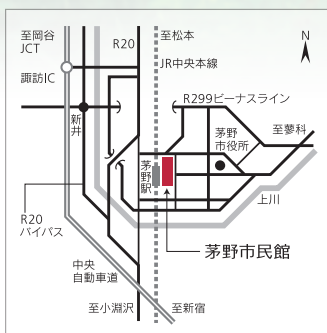
10月4日 (土) 入場無料
先着順300名

13時30分～15時 (開場13時)

終了後 会場にて書籍販売・サイン会

茅野市民館 コンサートホール

駐車場に限りがございますので
なるべく公共交通機関をご利用ください



アルフONS・デーケン (Alfons Deeken) 先生

略歴

1932年ドイツ生まれ。1959年来日。1973年フォーダム大学大学院(ニューヨーク)で哲学博士の学位(Ph.D.)を取得。以後30年にわたり、上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。カトリック司祭。

現在、上智大学名誉教授。「東京・生と死を考える会」、「生と死を考える会全国協議会」名誉会長。1991年全米死生学財団賞、第39回菊池寛賞、1998年ドイツ功労十字勲章、1999年第15回東京都文化賞などを受賞。

主要著作:『よく生き よく笑い よき死と出会う』新潮社、『新版 死とどう向き合うか』NHK出版、『あなたの人生を愛するノート』フィルムアート社、『心を癒す言葉の花束』集英社新書、他多数。